
1. <水球陣> 関東学生リーグ第1戦

H26.5.25 対首都大東京 @専修大学生田プール

東大 1 2 6 3 1 計22

首都大 1 4 2 0 計7

得点者：浪間(4)、池亀(3)、小池(1)、谷口(4)、山田(10)

関東学生リーグ緒戦。東大より実力の劣る相手であるため、大勝して今後の試合に向けて弾みをつけたい。控えメンバーの出場機会を増やすため、序盤で大差をつけて、後半は控えメンバー主体で戦えるようにしよう。

第1ピリオド

首都大がセンターボールをとりスタート。梶原が回し込まれるが即座に奪い返し、退水を誘発し、浪間がセットで落ち着いて決める。勢いづく東大は、パスカットからのカウンターで浪間、池亀、山田が連続で得点する。敵エースにフリースローシュートを決められるも、その後は徹底したプレスで得点を許さず、逆にカウンターで山田らが順調に得点を重ね、12-1でこのピリオドを終える。

第2ピリオド

予定通り第1ピリオドで大差をつけたため、ここからは控えメンバー中心で戦っていく。カウンターで谷口が先取点を取るも、回し込まれて失点する。その後、小池や山田らが得点するが、ロングシュートやフリースローシュートを何度か決められた上、パスミスなどにより得点しきれない場面も多く、それほど差を広げられなかった。

第3ピリオド

東大がセンターボールを取り、ピリオドが開始。1年の川島が公式戦初シュートを打つが惜しくも外す。谷口の不用意な退水からループシュートを決められ、さらにAゾーンからのまわし込みで得点される。しかし、ハンツやカウンターで山田、谷口が得点し、3-2でピリオドが終わる。

第4ピリオド

東大の攻撃からピリオドが開始し、山田がトップからのミドルシュートを決める。ここで15点差がつきコールドゲームとなったため、試合が終了した。

第1ピリオドで11点差をつけ、その後控え選手主体で戦ったこと、特に初心者の川島、久田も出場できたことは予定通りであった。しかし、第2ピリオド以降で控えがミスを連発し、思うようなゲーム展開ができなかったことは、スタメンと控え選手の実力差を如実に示しており、選手層の薄さが浮き彫りになった。スタメンもしばしば雑なプレーが見られ、反省の多く残る試合であった。

最後になりましたが、監督をしてくださった三宅さん、試合を観に来てくださった林さん、吉田さん、只野さん、本当にありがとうございました。

(文責 谷口 遼)
